

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢ひてエ

雑報 緑文

No. 702

2025年 月

も・く・じ

- 隠岐の島旅行 2
 - 年齢別在留外国人の推移 4
 - 葛蒲の節供 7
 - 「星がひとつほしいとの祈り他 8
 - お便りから 12
 - けいじばん 13
 - 山仕事(4月、薄場) 21
 - 映画「アプレンティス」 26
- (掲示板は13Pに)

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

米中の関税・報復の応酬

(写真はロイター)



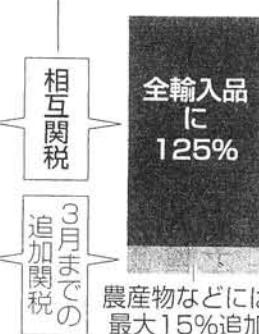
トランプ 大統領



習近平 国家主席



全輸入品
に
125%
全輸入品
に
20%追加



相互
関税

追加
関税
3月までの

全輸入品
に
125%

農産物などには
最大15%追加

まるでガキのケバクです。

(カレンダーと大きく違った
ので、号数表示だけに
します。)

(4月12日 東京新聞)
メール配信をご希望の方は、
<suzukikosei.san@gmail.com>へ。
三宅伊都子さんが
応対してくださいます。

題字 故佐村隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
力ツト 故泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、EXPO 2025。
(万博賛成じゃないけれど)

山仕事(4月、薄場)

桜三昧、素敵な三日間だった。

しかし、4月初めの雨には参った。アンナさんと小石川植物園を計画したが、予定の2日、3日とも雨。残る4日も12時以降に雨マークがあり、アンナさんと相談して改めて実施を決めた。だが、ぼくの連絡不徹底で佐藤真敏、田中紀代江のお二人にカラ足を踏ませることになり、落ち込んだ。その後も、13日に予定した土井さんと山梨の上条集落行きも、天候が荒れるとの予報で延期することにした。その度に連絡をし、上記不徹底もあり、疲れた。

4月8日(火) 晴。ほんた、駅前の桜はまだしっかりと残っている。そこで、今日は桜と富士を見ながら行くことにした。桜はよかっただが、富士はうすぼんやり。

敷地駅で久米、若林さんに迎えられる。いってん正士さんちに行き、チェンソーなどの道具類を積み込むことにする。

竹中さんと、本あとの列車で来た原田さんは、チェーンの目立てなどメンテナンス。その他のメンバーはワラビとり。2番茅だったが、けっこう採れた。

この日は作業をせず、「あらたまの湯」に入った後、森町薄場の久米さん宅へ。

(夕) タケノコの木の芽和え、ワケギの酢味噌和え、刺身(中とろ、カンパチ、ホタルイカ)、切干し大根の煮物、サバのショウガ焼、シタケ、きゅうちゃん漬け、大根のハリハリ漬けにスパゲティ。

タケノコは竹中さん、シタケは野菜類は久米さんの畠と竹中さんの提供。そして内田美智子さんから、川越の「蔵」最中をいただいた。ありがとうございます。

4月9日(水) 晴。時折、桜吹雪。手作り味噌の汁。

食後、康江さんがカレンダーの裏を使って祝賀報捷文700号の貼り紙づくり。どうやら、ぼくの知らないところで話が進んでいるようだ。

朝食後、春野町の尾上さん宅へ。三倉(みくら)川、気田(けた)川、熊切川と清流沿いの美しい道を行く。

前方に、サクラや花モモに囲まれたお宅が見えると、鼻の奥がツンとした。出迎えた尾上美智子さんも、目が潤んでいる。

庭から眺め、川べりで眺め、橋を渡って高みに登り、さまざまな角度から「桜の園」を眺める。

この桜の園、30余り前、熊切川左岸(右図の上部)の土砂崩れが発端だ。田んぼを埋め、流路を変えた土砂崩れの跡に「お父さん」(夫君静春さん)が



数十本の桜の苗を植えた。自動車工場の経営が忙しく手の回らない「お父さん」。ぼくが草刈りの手伝いをすることになった。

当時はぼく一人。背丈を越すカヤに埋もれた苗を誤って刈らぬよう、毎々立てた先端に白いポリ袋が結びつけられていた。当初は草刈り機はなく柄の長い明善鎌だけだった。全面刈るなど思いも寄らず、苗木のまわりだけ刈った。

その後、佐藤貞敏さんが加入り、やがて人が増え、草刈り機も整備され、作業がはかどるようになった。時には、離れた五和(と言ったかな)のスギ林の掃除刈りをしたり、シタケのコマ打ちを手伝うこともあった。尾上さんにはすみれお世話になる、楽しい作業だった。木が大きくなるてからは足が遠くなつたが、いまさし地形や大きな石の所在など思い浮かんでくる。

時折、ウグイスの声をききながらあずまやざわ茶をいただき、採り立ての野菜をいただき、お嬢さんとお二人に見送られ、旧天竜市二俣へ。

着いたところは、料理店「天竜膳三好」。丁度、水窓(みさくば)から昔2女4名を連れてきたところだった。ぼくの知らない間に、200号を祝う席が用意されていた。

久米さんの司会で始まり、原田さんが挨拶と乾盃の音頭。壁には康江さん手作りの貼り紙が。そして、尾上さんから贈られた真紅のバラ数十本の花束が手渡された。思いがけることに、またまた感動。

皆さんから、ひと言ずつ。

康江さん) もう40年も前からの付き合い。さっきは「もう飽きた」と言ったけど、永い間ありがとうございます。私も時々投稿しているが、あまり同じ人はばかります。もう少し、いろんな人に書いてほしい。

原田さん) 静岡へ来るようになったのは、関東農政局と一緒にいた頃から読んでいた雑誌で、大木を倒した記事を読んで凄いなと思ったから。

大木は、丑(うし)さん(の)機械小屋の脇に生えていたスギの木。道路に近く、枝が電線に触れるため、伐った。

ぼくが木に登って道路側の枝を切り落とし、正士さんが森林組合から借りたバー/ムのチェンソーを使い、ぼくが正士さんの(の)方にチラホーレゼミ(きながら)伐った。今も切り株が残っている。

山崎さん) 佐藤貞敏さんと天城越えをした時、「こんな面白いのがあるよ」と見せられて参加。ACAP(エイキャップ:消費者関連専門家会議)の「環境問題を考える」グループで、正士さんの所へ行くようになった。



雑報の企画でサイの神などあちこち出かけたとき、厚正さんが「なんぞこんなよい所に皆さん来ないんだろう」と言っていた。

雑報は、毎号国立国会図書館に納本しているので、一度行って見てください。立派に装丁されていますよ。

ネットワークもすごく、魅力的。鈴木秀人さんに「あとは山ちゃんやね」と言われたが、絶対ダメ。

若林さん）正士さんが理事をしている「元気里山」のボランティア活動のとき、佐藤さん達が居て、すごい人たちとびっくりした。人間のスケールが広がるような気がして、参加するようになった。尾上さんもすごい。

猫の手と途絶えさせてしま、久米さん竹中さんに協力してもらった。よろしくお願いします。

安屋さん）私の文ものせてくれるけれど、博識の人が多くて。

（「水窓の暮らしを書いて下さい」と、原江さん）

「代表的日本人」と書いてくれたけれど、気持ちだけは縄文に近づけるよう生きていきたい。

こういふ人たちに会えるとは思っていなかつた。せひ1,000号まで。

中谷さん）初めて会つたのは、津谷寛奈さんのところ。このような生き方はできないし、仲々手伝いもできなくて。大沢（下記参照）、斑尾高原さんの出会いで皆さんとも知り合え、本当にありがたい。

1年くらい永く生きられれば、奉仕の生き方をしていきたい。

熊谷さん）旅行記、主人と楽しみに読んでいます。「徘徊老人だね」と言ひながら。

竹中礼子さん）じいさんに「面白い人たちいるよ」と言つてゐる。水窓には絶対に居ない人たち。ケーナを吹いて昔の歌をうたう。

何ぞ大沢の賞吉さんのとこへ行つているのか。（4名の住んでいいるところをひとと山東側の斜面にある大沢集落。お茶の連作を出版している飯田長彦さんに誘われて行きました。別所賞吉・ナカエさん夫妻の隣りに、津谷寛奈さんが家を借りて住んでいました。何年か斜面の草刈りの手伝いをしたけれど、賞吉さんが亡くなつて中止）

だんだん行くうち、寛奈さんは遠縁で、ナカエさんの弟さんが私の姉の旦那に……と分かってきた。貴重な人たちに会えて楽しい。

竹中亮三郎さん）若林さんの紹介で「昔ながらの食をつくる会」の仲間に。

変つた人がいるよと紹介されて猫の手に参加し、びっくり。

いつの間にか毎回参加するよになつた。水窓からのおいしいご馳走もあり、今後とも永く、とりあえず800号を。



縄文にはいろんな意見があって楽しい。

（「また、バスを見に行きます」と、安藤さん）、ワ月頃です。

久米さん）私がトリだどうです。

ワの号は通過点だらうが、皆さん大騒ぎするのぞこういふ席になった。

猫の手もどうだが、内容はちょと上の世代の情報。いろんな人たちの私見がのってて、すごいと思う。テレビのコメントーターより濃いご意見と思う。

今回気付いたこと。「無料にします。ただし、年に一回はお便り」に、沢山の人たちからお便りが。それぞれにコメントしているのがすごい。一サ達う価値のものを感じる。

正士さんもバックナンバーをずっととてある。発行しているものに対して、熱い感情を抱いていることを感じる。

正士さんの「地域を美しく」に打たれて、夢見たことを実行されているといふ人たち。「地域を美しく、楽しく、明るいところにする」、本当はそれを望んでいるのではと感じている。

正士さんはいつか亡くなるかもしだれないけれど、その意(遺)志は後に引き継がれていく。そのひとつ役目として雑誌縄文がある。無理をしないで続けてほしい。

——聞き違い、もれがちあると思いますが、ご容赦——

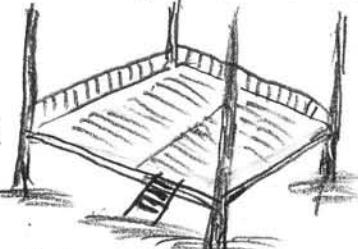


（正士さんがきちんとファイルしてくれたバックナンバーは、水窓の皆さんが引き取ってくれることになりました。正士さんから4月11日夜、電話があり「2階にも荷物があるのを忘れていた」とのこと。）

赤飯をいただきて水窓の皆さんと別れ、薄湯へ。

この日の作業は、以前、ホタルの観賞で上がったことのある、川べりの桟敷（デッキ？）の撤去。ぼくの大好きな「ぶっ壊し」だ。「〇〇党工ぶっ壊す」とか「〇〇Kをぶっ壊す」という人がいるが、こちらはそんな大それた「ぶっ壊し」ではない。

右のように、4本のスギの木の間に、2間四方、8畳間ほどの広さ、高さは背丈近くに造られている。竹中さんが中心となり、久米さんも釘打ちを手伝ったそうだ。8分(24mm)ほどの板は腐敗が進み、上にのるのはしばかれる。



4隅のスギには丸太が添えられ、上の板を支えている。ボルトで固定された桟をはずすと、ガタンと下がってくる。下がった端から、大きなバーレルととび口を使って、垂木(たさき)から板をひきはがす。板についた釘を、山崎さんが抜いていく。

順調に進み、残り半分となった板を下から支えている東(つる)をチェンソーで切っていくと、突っかい棒をしていたのに垂木が腐っていて、ぼくの頭を直撃した。幸い、重さがさほどなく、落下距離も少しかったので今のところ何ともないが、突っかい棒をもう1本入れておくべきだった。

17時、終了。「あらたまの湯」へ戻ると、青山忠義さんから鍋一杯のシタケの煮物が届いていた。「椎茸、急いで作りました。味はわかりません食べてください」のメモが添えてあった。ご馳走さま。

夕食は、
（の）糸こんにゃくの明太和え、タラの芽と玉ネギの肉巻、ワラビの油浸し、
厚揚と菜花の煮浸し、タケノコの土佐煮、赤飯と椎茸煮。
すばらしい一日だった。今年、365日の中でも最高の日となろう。

4月10日(木)、晴。若林さんは竹細工指導のため、早朝5時に出発。
朝食後、昨日取り壊した廃桟のうち使之そうな板をハス田のあぜ道に敷く。
昨年のハス田は2倍に拡大していた。小型トラクタを入れたら泥に沈み、竹中さんが鍛で開墾したそうだ。昔、藤澤七郎(故人)とやったが、大変だったぞしょ。
翌、うどんなどを頂き、久米さんに遠州森取まで送ってもらい、帰宅。竹中さんは、正士さんへ道具返却。充実した三日間だった。

△ 700号おめでとうございます。700号のメール配信は59名です。
さて、3月25日に正士さんにお会いし、ホームページについてお話を伺いました。正士さんは整理を進めてられ、その中で猫の手クラブや雑誌縄文に関連する点として、以下の2点がありました。

1. 「大平(おおひら)の今」のホームページ内、山仕事レポートでの「雑誌縄文山仕事」の掲載は、猫の手クラブがこの地の山仕事を続ける限り継続したい。
また、可能であれば写真を数枚でもアレバムとして掲載したい。
2. 雑誌縄文のバックナンバーのストックがあるが、どうか引き継いでいいだけないだろうか。

正士さんの強いご希望を感じましたので、その場で「雑誌縄文山仕事」のホームページ掲載は続けるとお返事をしました。

三宅伊都子さん(神奈川・平塚市)
(ありがとうございます。ばくふくも、どうかお願
い致します。バックナンバーは、水窪の皆さんか!)

